アド・キャスト News4月号 Vol. 88

DOMO! アド・キャスト 2018/4/2

■有効求人倍率（静岡労働局 季節調整値改定値）

県内の2月の有効求人倍率は1．65倍。※前月と同水準。

リーマンショックは2008年9月

有効求人倍率の推移(静岡県・全国) ※2009年8月は0.42倍(全国)であった

区分	2007年平均	2008年平均	2009年平均	2010年平均	2011年12月	2012年12月	2013年11月	2014年12月
静岡県	1.20	0.87	0.40	0.52	0.68	0.73	0.91	1.14
全国	1.02	0.77	0.45	0.56	0.71	0.82	1.00	1.14

区分	2015年12月	2016年12月	2017年9月	2017年10月	2017年11月	2017年12月	2018年1月	2018年2月
静岡県	1.25	1.42	1.57	1.59	1.60	1.61	1.61	1.65
全国	1.27	1.43	1.53	1.55	1.56	1.59	1.59	1.58

〇静岡労働局が3月30日発表した有効求人倍率(季節調整値)は1.65倍となり、前月を0.04ポイント上回った。

→4ヶ月連続で1.6倍台で推移している。

全国値は1.58倍(前月を0.01ポイント下回った)。全国値を12か月連続で上回った。

■トピックス

就活面接 3月解禁検討 経団連前倒し、21年入社で（日本経済新聞3.7）

経団連は2021年春に入社する学生から、採用活動の解禁時期などの就活ルールを見直す方向で検討に入る。
今は会員企業の採用面接を6月に解禁しているが、3月への前倒しやルールの緩和を議論する。
経団連は12日に開く会議で見直しの議論に着手する。今年秋にも結論を出す方針だ。学業への配慮を求める政府側との調整も並行して進める。

①面接解禁を3月に前倒し(説明会の解禁を事実上廃止ほか)
②ルールを目安に変更(企業の採用活動で自由度が高まる)
③旧来型に回帰(説明会の解禁を大学3年の12月、面接を4年の4月に戻す)
④ルールの廃止(通年採用が広がり新卒一括採用の見直しにつながる)

大卒採用 来春9.3%増 IT人材争奪激しく(日本経済新聞3.21まとめ)

日本経済新聞社が21日まとめた2019年春の新卒採用計画調査(1次集計)で、主要企業の大卒採用は18年春の実績見込みに比べ9.3%増える見通しだ。9.1%増の製造業がけん引し、全体のプラス幅は4年ぶりに上昇。理系の採用計画は13.8%増と高水準が続く。人工知能(AI)など先端分野を担うIT(情報技術)人材の争奪戦が激しさを増している。
大卒の採用計画は9年連続のプラスとなった。製造業の採用意欲が旺盛で、昨年春調査のプラス幅(6.7%増)を2.4ポイント上回った。業種別では電機が13.0%増、機械が11.5%増と昨年春調査のプラス幅を上回る伸びとなった。自動車・部品も6.5%増と18年春並を維持する。製造業ではAIや、あらゆるものがネットにつながるIoTを活用した製品・サービス開発のためIT人材の争奪が激しくなっている。

【大卒採用を巡る主な特徴】
〇製造業が理系の採用を拡大 〇AIなどの担当者を新卒から育成 〇インターネット企業などでIT人材の初任給引き上げの動き 〇人材争奪が激しく、採用計画に未達の企業も相次ぐ。

失業率、2月は2.5%(総務省30日公表)

総務省が30日公表した労働力調査によると、2月の完全失業率(季節調整値)は2.5%で前月比で0.1ポイント悪化した。
悪化は2017年5月以来9カ月ぶり。総務省は1月に雪の影響で失業率が大きく低下した反動が出たとしている。
完全失業率は働く意欲のある人で職が無く求職活動をしている人の割合を指す。求人があっても職種や年齢などで条件があわない「ミスマッチ失業」は3%程度とされ、0.1ポイント悪化してもなお完全雇用状態にある。